

キッズ ふくしま インタガダ

第17号

2023年10月1日

(発行)

キッズふくしまインタガダ実行委員会

(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派新潟教区高田教務事務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>



実行委員長 あいさつ

新潟教区 第一組 徳正寺

しげはら たかし
繁原 立

震災から十二年という月日が流れ、街の至る場所が復興を遂げたり、そうできなかったりしています。電車の駅や高速道路が開通してもその周りで暮らすことが未だに困難な地域があることは皆さんも重々ご承知のことと思います。今、私たちはキッズふくしまの活動を通してたくさ

親鸞聖人御上陸の地展望台（居多ヶ浜）にて

んの福島の子どもや親御さん方と関わってきました。あるお母さんから「是非送迎等でい

います。受け入れるだけではなく、私たちも現地に足を運び自らの五感で感じることも大切なことだと思います。実際に私は五年ぶりに五月、寄磯浜で行われたお祭りに行きました。現地の方と色々な話をし、道中の町の景観なども変わりとても驚きました。その後も六月には初めて陸前高田市を訪れ十三回忌法要に参加して、今も残っている震災遺構の建造物や当時と今の違いなどのお話をお聞きしました。「忘れて下さい。」この言葉を常に意識しながら生活を送っていましたが、やはり現地に行くこと忘れていた我が身を知らされました。

今回のキッズに関わって下さっている有志のメンバーで、いわき市へ九月二十日〜二十一日で視察旅行に行きます。その際一日目は明賢寺様の本堂等をお借りしてOB、OGなら誰でも参加可能な懇親会を行います。社会人から小学生まで幅広いメンバーが集まって、懐かしい話や近況報告などたくさん語り合いたいです。来年は福島市か郡山市に会いに行くことも現在検討中です。

「ごめんなさい。」から始まったキッズふくしま。今も、そしてこれからも続いていきます。

7月29日～8月3日
(5泊6日)



1日目 (7月29日)

池の平センター到着
オリエンテーションなど

いわき市からはるばる新潟へ来てくれた19名の子どもたち。スタッフとして参加してくれた2名のキッズふくしまOB・OG、新潟看護大や中越高校の学生ボランティアとも開会式で顔合わせをしました。

その後は自由時間。リピーターの子が多い中、初めて参加してくれた人もすぐに打ち解けて、長旅の疲れも見せず元気に遊びまわりました。



夕食は定番のカレーライス
皆で食べるとより美味しい



夜のお楽しみ会。紙芝居の読み聞かせや体を使ったゲームなどを行いました。

今回も中越高校写真部の皆さんがボランティアで参加して下さいました。自慢のカメラで撮影した画像もたくさん掲載していきますのでご覧ください。



2日目 (7月30日)

十日町市松代地区へ訪問

二日目はセンターを離れてまつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」を訪問し、そこから松代城まで歩きました。山頂にそびえる松代城までの道中に多くのアート作品が点在しているので、里山の自然を満喫しながら美術観賞も楽しむことができました。



とても暑い一日でしたが、全員松代城へ無事到着。たくさんのアート作品にも触れながら、一日楽しく散策することができました。松代城天守閣からの眺めも最高でしたよ。

キッズふくしまの活動にお力添えいただきありがとうございます

この活動に対し様々な方に御支援をいただきましたことをご報告させていただきます。

- ・志賀佳代様 ・奥脇保秋様 ・加藤龍馬様 ・千葉耶映様
- ・第三組西性寺様 ・第五組様 ・山崎義成様
- ・新潟教区江口兼弥次長様 ・石井夕子様
- ・松村さやか様 ・NPO 法人大萩茗荷村（滋賀県）小泉様

～ 会計報告 ～

通帳残高 1,564,607 円

(2023年9月4日現在)

※順不同



ご寄付いただいた品物の一部です

この基金はキッズふくしま実行委員会が管理をして、必要があれば実行委員会の決意を経た後、キッズふくしま関連事業への補助に充てています。今後も別院報恩講や各種行事において募金活動を行う予定です。また、実行委員会では随時スタッフを募集しています。お問い合わせは事務局まで。

3日目 (7月31日)

いもり池オリエンテーリング
ものづくりワークショップ



朝の勤行

大きな声が出るようになりました



いもり池 オリエンテーリング

午前中はセンター近くの「いもり池」周辺を散策しました



ものづくりワークショップ オリジナルトートバッグ

好きなデザインを描いてバッグにプリント。素敵なお土産ができました。



ねじりパン作り&BBQ

皆で焼いて美味しくいただきました





4日目 (8月1日)

海水浴 (なおえつ海水浴場) 花火大会

四日目もセンターを離れて「なおえつ海水浴場」へ。親鸞聖人御上陸の地である居多ヶ浜記念堂を拠点にして、一日たっぷり海水浴を行いました。お昼は有志の坊守さん手作りのおにぎりと豚汁が格別でした。差し入れにいただいた飲み物やアイス、きゅうりの一本漬けにも元気をもらいました。



夜は花火で楽しく遊びました

5日目 (8月2日)

ワークショップ (竹細工)
水遊び



5日目午前中は竹細工に挑戦。のこぎりやなたを使って器と箸を作りました。出来上がった食器を使って食べた流しそうめんは、ほんのりと青竹の香りがして一段と美味しく感じました。



午後はセンターの芝生広場で水遊び。水鉄砲や水風船で全身ずぶ濡れになりながら、大人も一緒になって楽しみました。



最終日の夜は各班趣向を凝らしたスタントの披露。就寝時間ぎりぎりまではしゃぎ回っていました。





小学3年生
丹野 快理さん

僕は初めてサマーキャンプに行きました。一番楽しかったことは海水浴です。どうしてかというところ、きもちよかったです。二番目に楽しかったことは、水遊びです。どうしてかというところ、すずしくてやる時間が長かったからです。いろいろあつたけど一番楽しかった遊びは、「テストプレイなんてしないよ」です。どうしてかというところ、バカらしいけれどやめられなかったからです。三番目に楽しかったことはいもり池で、はいけいをさがしたことです。どうしてかというところ、歩いてさがすのがとても楽しかったからです。次に楽しかったことは、バーベキューと山のぼりです。バーベキューは、焼いた野菜いやウインナーや肉などを食べるのがおいしかったです。山のぼりはたいへんだったけれどいろいろなさくひんを見れて楽しかったです。城の中もとても楽しかったです。また行きたいです。

僕は初めてこのサマーキャンプに参加し、ワクワク、ドキドキする体験をすることができてとても楽しかったです。活動の中で、ものづくりワークショップのバックを自分でデザインして作りました。私は、真ん中にさくらんぼを書いて、HとRを書きました。初めてバッグを作った楽しかったです。それから、みんなで入った海水浴も楽しかったです。ういたり、およいだりして遊びました。休けいには、アイスを食べました。たくさん海に入れてうれしかったです。最終日には、流しそうめんをやるために、竹でうつわとおはしを作りました。初めて作ってむずかしかったけど、上手に作れてうれしかったです。流しそうめんと一緒にトマトとうずらのたまごが流れてきて、とるのがむずかしかったです。でも、手作りのうつわとおはしを食べれてとてもおいしかったです。六日間とても楽しかったです。

小学5年生
星野 陽菜里さん

私は、初めてこのサマーキャンプに参加し、ワクワク、ドキドキする体験をすることができてとても楽しかったです。活動の中で、ものづくりワークショップのバックを自分でデザインして作りました。私は、真ん中にさくらんぼを書いて、HとRを書きました。初めてバッグを作った楽しかったです。それから、みんなで入った海水浴も楽しかったです。ういたり、およいだりして遊びました。休けいには、アイスを食べました。たくさん海に入れてうれしかったです。最終日には、流しそうめんをやるために、竹でうつわとおはしを作りました。初めて作ってむずかしかったけど、上手に作れてうれしかったです。流しそうめんと一緒にトマトとうずらのたまごが流れてきて、とるのがむずかしかったです。でも、手作りのうつわとおはしを食べれてとてもおいしかったです。六日間とても楽しかったです。



いわき市

佐藤 真姫さん

今年も我が家にとって恒例となった娘のサマーキャンプが無事に終了し、娘はこんがりとした肌で元気に帰ってきました。家路の車中、娘は何度も「正直帰りたいくない」と繰り返し、楽しかったキャンプでの出来事をずつと話していました。それはそうだろうと、私も毎回思うのです。原発事故の後、台風による豪雨災害やコロナウイルス感染症対策で何度も休校になり、楽しみにしていたイベントも、中止が続きました。私もすっかり臆病になり、外に出て友だちと遊びたがる子どもたちを、家にいるように言い聞かせることばかりになりました。

そんな状況でも、年に二度のキャンプは続けられました。中止にしてしまおうではなくどうすれば開催できるのかを考え、実行を提案してくれる大人がいる事は、保護者としてとてもありがたく、子どもたちの行動制限に対して疑問や懸念があっても、どうすれば良いのか分からずにいた私にとって、心強く感じました。そうして継続されてきた、キャンプに携わる方々への娘の信頼は厚い。キャンプ期間中しっかりと向き合ってくれる、信頼できるスタッフの方達の中

ネットで公開しています

これまでの取り組みや今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。アクセスして下さい。

ホームページ

<https://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

Facebook

<https://www.facebook.com/kidsfukushima/>

Twitter

<https://www.twitter.com/kidsfukushima/>

で、安心してのびのびと、様々な経験をさせてもらえるのだから、それは家に帰りたいたくないのもよく分かります。

今夏の暑さは例年より更に酷く、部活帰りの中学生が熱中症で亡くなったニュースは衝撃的でした。物価高騰は続き、子どもが夏休みでも、生活の為に仕事はますます休めません。結局帰宅した娘はエアコンの効いた部屋で私の帰りを待つ日々です。退屈だろうし体力も落ちるだろうと思いつつ、変える事もできない…。生活することに必死で、大人に余裕がないと感じます。それでも、子どもたちの為に寄り添ってくれる人たちが間違いなくいる。その事を、私も心にとどめて、子どもたちとのより良い生活を模索していこうと思います。

ボランティア参加者

新潟県立看護大学二年

池主 朋華さん

私は、子どもたちとの関わり方を学ぶために普段から様々なボランティア活動に参加させていただいています。このことを知った方にお声をかけていただき、今回初めてキッズふくしまに参加させていただきました。

子ども達と過ごして、楽しむ時は全力で楽しみ、話を聞くとときは静かに話を聞く、そんなメリハリがある子ども達だと感じました。また、このキャンプは楽しみながらも子ども達が親元を離れて自立していく場でもあると感じました。参加した子ども達が小学校低学年から中学生と年齢層が広いからこそ、高学年の子が低学年の子を助けてあげるなど、スタッフを手を貸さなくても子ども達同士で助け合う姿が見られたからです。

水遊びの際には顔に水をかけてはいけないなどの決まりを守っていない子に注意する子どもの姿も見られ、みんなで決まりを守りながら全力で楽しむ姿がとても印象に残っています。スタッフが子ども達に声をかけることも大事ですが、子ども達同士で助け合ったり注意し合ったりしながら過ごしていくことが

自立に繋がる重要なことだと感じました。その中でスタッフは、子ども達の自立を阻害しないような声掛けが重要だと思っっています。ですがこの声掛けがとても難しく、まだまだ自分は未熟だと強く感じる機会にもなりました。

今回感じたことを活かしながら今後も学業に励み、私自身も成長した姿で子ども達とまた会えるよう、頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。次のキャンプが予定されています。春休みには、子ども達がこの夏よりも成長した元気な姿で参加してくれることを願っています。

キッズふくしま参加者OG

千葉 耶映さん

今回、私は「キッズふくしま」にスタッフとして参加させていただきました。最後にこのキャンプに参加させていただいてから約6年が経ち、今年大学生となりました。そんな私は、現在も福島で生活しており、東日本大震災と福島を見つめ直していききたい、そんな思いから今回の参加に至りました。

さて、久しぶりにスタッフの方々にお会いできるのが楽しみな気持ちと少しの緊張感をかかえて、迎えた当日でした。しかし、センターに着くとすぐに、

それまでの私の緊張を吹き飛ばしてくるような子ども達のキラキラした顔と元気いっぱいの姿がありました。改めて大好きな場所に来たなあと懐かしく思うとともに、やはり大自然の中で、全力で遊び回ることが出来る環境があるということも重要だと感じました。

今回は、三日間のみの参加ではありましたがたくさんの思い出ができ、貴重な時間となりました。自分が子どもへの気付けなかつたことですが、子どもたちは、友達を作ることがとても上手です。センターに到着するや否や、すぐに話しかけてくれたり、自分の学校の話をしてくれたりして、とても積極的に驚きました。家族でも顔見知りでもない大人に対して、何の心配もなく安心して話をする事ができる場所が「キッズふくしま」なのだ。家族ではないけれども、家族のように寄り添ってくれる人がいる、それが「キッズふくしま」なのだ。ということを、この三日間で感じました。

最後に、現在私は、大学で人間の心理や発達について学んでいます。東日本大震災から何年たとうが、子どもの発達と震災問題は切っても切れない関係にあります。震災を経験した大人の心に刻まれた不安や悩みが、震災後に生まれた子どもたちへどんな影響を与えているのか

かについても調査や相談を行うこともあります。「時間が経てば忘れられてしまふ」「知らないから仕方ない」ではなく、今を生きていく私たちが、より良い今をつくっていくけるように、震災を伝え、福島のことを伝えていかなければならないと思いました。

今までも、これからも、私たちに寄り添い支え続けてくださっているみなさん、本当にありがとうございます。

皆様からのご寄付を
お願いいたします

- 郵便局からの振込 -

口座記号番号 (ゆうちょ銀行)
00500-1-101787

口座名 キッズふくしま たかだ

- 他金融機関からの振込 -

店番 059 (ゆうちょ銀行)

口座名 キッズふくしま たかだ

預金種目 当座

口座番号 0101787